

「飛騨高山の歴史文化を通じて人と共にあった財産の一つである 「木」を再評価した施策の展開」

●政策課題の発生源（背景）

高山市は飛騨匠を始めとした歴史文化、外貨獲得産業として重要な役割を持つ五大家具の生産地、日本一広大な市域の92%を占める森林など、「木」と密接に結びついた歴史文化・経済・自然資本を持つまちである。

近年、ウッドショックを契機とした国産材活用の機運の高まり、SDGsや脱炭素社会における木材の炭素固定機能への注目、更にはインバウンド観光振興による木造伝統文化財の保護から活用への転換など、「木」の利活用に対する重要性が増すものと期待されている。

●求められる姿（目的）

一貫した施策の展開により「木」を軸とした当市の財産である歴史文化・経済・自然資本が調和し、伝統と革新が共存する持続可能なまちづくりの実現を目指す。

●行政は何をすべきなのか（基本的方向）

- ①「木」をまちづくりにおける重要な検討軸の一つとしての位置付け
- ②各施策の検討段階における、「木」との関連性の強化
- ③「木」を軸とした一貫した施策の展開の多分野への展開
- ④「木」に関する各施策を通じた、市民への周知・意識の醸成

●主な調査活動

◇木のまちづくりの推進について政策課題研修会、川上（伐採）・川中（選木・製材・乾燥）・川下（製造）の一連の流れにおいて、先駆的な取り組みを行なっている自治体・事業者等への視察

高校生との意見交換会を開催

次代を担う若者たちの斬新な視点や発想、高校生ならではの問題意識を受け止めたいと、市内4つの高校と飛騨特別支援学校へ出向く形で生徒や先生方と意見交換会を行いました。

各校が取り組む「探求学習」の発表会や卒業作品展を見せていただいた後に、卒業後の進路や故郷への想い、まちの将来像などについて率直な意見を聞かせていただき、気づきを得たところです。

高校生からの主な意見

- ・大学で英語を学び観光地高山で英語を活かした仕事に就きたい
- ・自然豊かで子育て支援策が充実している高山で子どもを育てたい
- ・将来、教員になって郷土を大切にすることを伝えたい
- ・オンラインのできる仕事が増えれば、都市部からの移住者も増えるのでは
- ・アニメの聖地としてPRを工夫したり、ユーチューバーの力を借りて、高山の魅力をもっと発信するべき
- ・映画館も入った複合エンターテインメント施設が欲しい
- ・議員と話せてよかった。小学校・中学校の時から議員と接する機会があるといい



高山西高等学校



高山工業高等学校



飛騨高山高等学校



斐太高等学校



飛騨特別支援学校日赤分校



飛騨特別支援学校